

## 第6次知多市総合計画審議会〔第5回〕

【日 時】平成31年4月23日（火） 午前10時～12時

【場 所】知多市役所3階協議会室

### 【出席者】

会 長 吉村輝彦 日本福祉大学 国際福祉開発学部 学部長・教授  
副会長 入江容子 愛知大学 法学部 教授  
生田祐江 市民ワークショップ「未来にツナグ会議」参加者  
市野 恵 特定非営利活動法人 地域福祉サポートちた 代表理事  
片山麻有 愛知県男女共同参画人材育成セミナー修了者  
河村康英 社会福祉法人 知多市社会福祉協議会 地域福祉課長  
久野美奈子 特定非営利活動法人 起業支援ネット 代表理事  
高山博好 NPO法人びすた〜り 代表 環境カウンセラー  
竹内栄道 知多市商工会 監事  
竹内徳得 知多市観光協会 副会長  
竹内 誠 知多市コミュニティ連絡協議会 会長  
富田敬子 市民ワークショップ「未来にツナグ会議」参加者  
長倉剛士 日本労働組合総連合会 愛知県連合会 知多地域協議会 代表  
水内智英 名古屋芸術大学 芸術学部 准教授 国際交流センター長  
峯神亜由美 知多メディアスネットワーク株式会社  
営業部 集合・法人グループ グループリーダー  
吉川佳代 知多市社会教育委員  
(事務局)

【欠席者】近藤通哉 株式会社 日本政策金融公庫 国民生活事業本部 信越地区統轄  
榊原秀敏 あいち知多農業協同組合 営農部 知多営農センター長  
野尻紀恵 日本福祉大学 社会福祉学部 教授  
松本幸正 名城大学 理工学部 教授

【傍聴者】3名

### 【議事次第】

- 1 会長あいさつ
- 2 議題
  - (1) 将来像について
  - (2) 重点戦略について
- 3 その他

## 【会議の概要】

### 1 会長あいさつ

[事務局]

事務局の企画情報課長、細川です。

会議開催に先立ちまして、毎回お願いしていることではございますが、会議の内容をホームページなどで市民の皆様に積極的にお届けしたいと考えております。記録のための写真撮影を行いますので、よろしくお願いたします。

なお、本日の会議におきまして、欠席のご連絡を頂いております。お配りしております名簿、「参考資料1」をご覧くださいませでしょうか。日本政策金融公庫の近藤委員、あいち知多農業協同組合の榊原委員、日本福祉大学の野尻委員、名城大学の松本委員より欠席のご連絡を頂いております。本日、16名の出席で定足数に達しております。

それでは、会長、よろしくお願いたします。

[吉村会長]

皆さん、おはようございます。新年度に入り、第1回目ということですが、平成から令和という時代の境目で、これからの未来を想像するのに良い機会になっていると思ひながら、今日を迎えております。今日を迎えるにあたって、第1回の議論でどんなことがあったかを思ひ浮かべました。事務局から、総合計画の目標としてどういうことが書かれていたのかを改めて確認しながら、今年度の審議をしていければ良いと思ひています。

そのときに、市民が自分事として主体的に関わるきっかけとなるような総合計画でありたい、ということや市民のシビックプライドの醸成について書かれていましたけれども、まちに対する愛着や帰属意識を醸成するような総合計画でありたい、併せて市職員のスタッフプライドが向上するような総合計画でありたい、ということがあったと思ひます。

併せて、計画策定の基本的な視点で、単なる行政計画だけではなく、地域全体としての公共計画でありたい、という話もあったかと思ひます。その中で、行政・市民の行動指針となるような計画でありたい、ということもあったかと思ひます。さらに、地域の人たちに共感を得られる計画でありたい、ということもあったかと思ひますので、この点は議論をしているうちに忘れがちかと思ひますが、これから皆さんとともに考えていく総合計画において、そういうところを大事にしていきたいと思ひています。

市民にいかに伝わりやすいか、分かりやすいかだけではなく、むしろ市民が関わりやすい、関わりたいたと思わせるようなものであるか、ということが非常に重要で、委員の皆様も自分がこういうことであれば関われると思えるかどうかを是非気かけながら、多くの意見を頂けたらと思ひています。概して、行政がやっていくことの裏付けという意味合いもありますが、それだけではなく、今回は一つのチャレンジとして、地域の人、市民が色々な意味で関わりたいたと自ら思えるように、一緒に考えていきたいと思ひています。

事務局からの幾つかの提案も、この方向でまとめるという意味合いではなく、これを素材に、地域の人たちの関わりしろがあるような計画になれるように、意見を積極的に頂きたいと思ひますし、今までの当たり前ではないことをやっていこうというのが本審議会のチャレンジだと思ひますので、お互いに知恵を出し合いながら一緒に検討できればと思ひますので、よろしくお願いたします。

## 2 議題

### (1) 将来像について

[事務局]

【配布資料の確認】

【「将来像（案）」について説明】【資料1】

[吉村会長]

まず、将来像に関しては、テーブルごとではなく、全体でご意見やご質問をきたいと思います。色々なことを思い浮かべる方もおられると思いますし、率直に感じたことをご発言いただければと思います。

[竹内（徳）委員]

「あたらしく」という言葉に引っかかりを感じました。確かに、元号が新しくなるとか、50周年を迎えての新しいまちづくりということ、また、「あたらしく、知多らしく」と韻を踏んでいることで選ばれたとのことで、それもありがたと思います。ただ、元号が変わるからといって大騒ぎするのもどうかと思います。ここで狙っているのは、市民のチャレンジ精神、また前向きに意見を出し合って作りあげていく意味合いだと思っています。例えば、「いきいきと、知多らしく」というのはどうでしょうか。

[水内委員]

「あたらしく、知多らしく」ですが、今まで議論してきた内容が少しふんわりしてしまった印象があります。将来像の方向性、指針を示すものは、市民の行動を促すものであり、市民が行動する際の気持ちを代弁するものであってほしいと思います。

また、外の人が知多を見て語っているように読め、抽象的ですが、市民が主語になっているのが望ましいのではないかと思います。

「あたらしい=良い」というのは、もう前の話かもしれませんが、古いものにも良さがあり、「あたらしい」が前面に出るところが気になりました。一つ一つの表現が柔らかいのは良いのですが、少しふんわりしすぎている印象です。行動を後押しするような表現があると、より市民の参加を引っ張るようなキャッチコピーとなるのではないのでしょうか。

[富田委員]

市民ワークショップで話していた内容が多く盛り込まれており、とても素敵だなと思いました。色々な色の景色が浮かぶ点で、特に前半に魅力を感じています。

[生田委員]

私自身生まれたときから知多市にいますので、30数年ずっと知多市を見ていますが、「緑園都市」という言葉に引っかかりを感じてきました。この30数年で大分緑が無くなってきているのが知多市の現実であると感じています。「梅」という言葉が入っていますが、実際は、梅畑を潰して住宅地になっている現状を見てきています。「緑園都市」の説明には、少し変化が起きてきているのではないかと思います。

[入江副会長]

総合計画の将来像でこのような叙述的な文章に最初は驚きましたが、多くの方がイメージを共有しやすい点では良いと思います。しかし、色々な文言を書き込んでいけばいくほど、違和感を覚える市民も多くなるという難しさがあり、両面をはらんでいるのではないかと思います。

最も気になることは、少し叙述的すぎて風景描写的な感じがすることです。10年後のスローガンを誰が作っていくかといえば、市民と一緒に作っていくので、多くの市民が自分事として関わっていくとすれば、もう少し自分たちがどのように関わっていくか、どういったことを目指していくのかを示す必要があると思います。それに対する内容は、最後の4行ほどしかありません。

また、「見慣れた普段着の景色も、初めての人にはときめく風景だったりします。」の部分は、観光客の誘致を狙っているのか、市民に視点を変えてみると良いことがある、と言いたいのか、どこが主体なのかがよく分からないと思います。

最初に将来像を拝見したときに、「あたらしく」は「わたしらしく」かと読み間違えましたが、「わたしらしく」であれば、一人ひとりがそこで輝くという意味も反映しているのではないかと思います。

[竹内（誠）委員]

古いものと新しいものの両方が盛り込まれていると思います。これが実現したら素晴らしいと思いました。

[久野委員]

これはこれでありかなと思いました。これまでの議論で出てきた要素を盛り込もうとする意志は感じました。キャッチフレーズで難しいと思うのは、皆の意見を盛り込めば良くなるというものではないということです。リスクを減らすと発信力が落ちる、あれもある、これもある、というところとインパクトに欠ける、というところで、漏れがないようにするものと思いついて打ち出すものとの違いの共有認識を持った上で、この文言が何のためのものか、これだけで全てを網羅していなくてはならないのか、何かのきっかけとなれば良いのかを意識しながら取りまとめていく必要はあると感じます。

[河村委員]

「あたらしい」だけではなく、知多市のこれまでの50年の歴史を回顧するような良さがあると良いのではないのでしょうか。今回の総合計画ではストーリー性を色濃く出すというのであれば、知多市民を主語とするような書き方が良いと思います。

[峯神委員]

きれいな小説を読んでいるように感じ、これはこれで良いのかなと思いました。

ただ、「あたらしく」というフレーズが、知多市の今までの古くて良いものと相対しているようで違和感がありました。右側の説明を見てこれがチャレンジに繋がっているんだな、と思って納得はしましたが、若干の違和感を感じたところです。

「梅香る」の部分は、新元号の「令和」が梅花の歌を典拠としていることから、ようやく知多市の時代が来たなと思い、ここは非常に良いと思いました。

[吉村会長]

「緑園都市」については、少し気にかかることがあります。行政としての立場もあるかもしれませんが、これまでそうだったから使うという理由ではなく、良くも悪くも今までのことを反省して、本気でこれを実現するために重点的な施策をするなど、きちんと後でフォローするのであれば、それは知多市の思い、1つの方向性にはなると思います。そうでなく、今まで使ってきたからということであれば、各委員のご意見も踏まえて考えてみる必要があるのではないかと思います。

今後は事務局において整理していきたいと思いますが、入江副会長がおっしゃったように「あたらしく」ではなく「わたしらしく」とするのは悪くないと思います。そうすると、後ろの「わたしたち」と重複してしまうので、もし緑園都市を残すのであれば、「これからの緑園都市」などとして、これまでと違う取組をしていく、という見せ方をすると良いのではないかと考えました。

引き続き事務局と議論しながら、皆さんのご意見を踏まえて整理していきたいと思います。重要なのは、誰が主体となっているかを読んだ人がどう受け取るのか、自分の中でまちのイメージを想像するだけではなく、ここで自分は何ができるかを想像させることです。他方では、それをどのようにやっていくかということは簡単なことではありませんが、それも含めてチャレンジなのではないかと思います。

このような将来像を実現していくために、重点的に取り組んでいくものが重点戦略です。せっかく良いイメージが描かれたとしても実現するための手段が出来ていないと実現には向かいません。この議論を深めていきたいので、重点戦略について事務局にご説明いただきたいと思いますが、「基本的な考え方」の部分も前回から修正されているところがありますので、そこも含めて説明をお願いします。

[事務局]

【「まちづくりの基本的な考え方とめざす姿」について説明】【資料2】

【「重点戦略骨子（案）」について説明】【資料3】

【「重点戦略の主な施策（案）」について説明】【参考資料3】

[吉村会長]

事務局の説明のとおり、今までの典型的なパターンは、項目があって施策があって担当が付いてと、横断、連携した取組が必ずしも実現する状況にはありませんでしたが、それをどうやって展開できるのかは大きなチャレンジですし、入江副会長からパッケージ化した仕組みや仕掛けを大事にしたいというご意見もありました。そこを意識しながら、どのようなことをやっていかなければならないかについて、テーブルごとに議論できればと思っています。

これまでの議論で、高山委員からご提案いただいた子どもたちが耕作放棄地で色々なことをする取組などは、個別の項目と施策に分けてしまうと入れにくいですが、それをどう入れていくのかということがあります。また、交流と活動の場でも、色々な活動の場があったとしても、移動手段の担保とセットで考えられないとうまく機能しない、ということを考えると、「ひとづくり」「あんしんづくり」「にぎわいづくり」は重なる部分が多くあります。それが施策レベルや担当課レベルでどう連携するか、横断的にできるかを、どのように見せていくかということは大きな課題ですし、皆さんとチャレンジしていきたいと思っています。本日の段階では、事務局案に対して忌憚のない意見を頂けたらと思います。

30分程、テーブルごとに議論をし、全体共有後、全体での意見交換という段取りで進めたいと思いますので、よろしくをお願いします。

## 【吉村会長のグループ発言骨子】

[市野委員]

将来像のところで、長く知多にお住まいの方が「緑園都市」や「梅香る」に違和感があるのであれば、その施策を積極的に盛り込む意味がないと感じられる。余談だが、梅の花は咲くが、梅の実を作る農業後継者がいない。梅の館で売られている梅干しのほとんどが知多産ではなく、9割が輸入品。そのことも含め、もう少し緑の環境について書き込みがあると良い。

地域包括ケアシステムの構築については、医療の視点が欠けており、書き方の工夫が欲しい。

[吉川委員]

社会教育委員という立場でいうと、「学ぶ」という言葉が抜けている。人が生きていく上で一番大事なのは学ぶということ。子ども達の環境を整えるにしても、親たちが学んでいなければ子どもに学べとは言えない。学ぶ人づくりは全てに通じる。「めざす姿」の「ひとの未来」(5)などにはあるが、重点戦略の「ひとづくり」のところにも生涯学習を通じた学びを入れることが必要ではないか。

[吉村会長]

重点的に行う重点戦略と分野別計画があり、色々な課題がどちらかには出てくる上での、重点的な部分にどの程度書くかということだと思う。「生涯学習」というと、狭くなってしまう。狭い意味の教育とするか、広く学ぶとするか、というところで、広い意味での学びについては、「ひとづくり」の中のどこかに書いた方が良いと思う。

[竹内(誠)委員]

「緑園都市」がどうなのか。

梅も、1万本構想に基づき、今6,500本であるが、県の土地もあり、残り4千本が大変だと思う。梅の花を観るため15万人が訪れるが、実をどうするかが問題である。佐布里小学校がPTAで注文を受けた分だけちぎるが、ほとんど残っている。それに目を付けて、地元が観梅客にパンフレットを配布し、一袋(5~7kg)300円で販売する取組を一昨年から始めた。

梅の実を継承できるかは、農業では無理だと思う。前日も話したが、人が手を入れた「緑園都市」なのか、草だらけのそれなのか。本当にきれいな「緑園都市」とするのであれば、ボランティアか市の力がないと維持するのは難しいと思う。

[長倉委員]

「都市」という言葉が明確に定義されていないが、知多市は一般的な「都市」にふさわしいか。イメージで言うと、「都市」とは名古屋市内の中心部のようなところ。「都市」という文言がしっくりこない。

梅ちぎりの話もあったが、私も家族で梅ちぎりに参加し、佐布里の梅の木を庭にも植え、梅干しと梅酒も作っている。こうした取組は今後も続けてほしい。ただ、まだ採りきれしていない分もあり、もっとPRしていただきたい。

「参考資料3」について、就労支援の視点から、外国人や障がい者、闘病しながら就労する方が今後さらに増えていく。LGBTの方も外見からは判断できない。そういう方から告白されたときの対応に

ついて、企業の研修なども増やして行ってほしい。企業も、職場にこういう方がいたときに、一緒に仕事をしていくためにどうしたら良いかという視点も大切である。

孤立させないという点で言えば、中高年の引きこもりが多いが、なかなか社会復帰もできない人が社会復帰するにはどうしたら良いか。表立って出てこない部分にも目を向け、多様性を受け入れつつ一緒に暮らしていかなければならない。

[吉村会長]

今日の事務局説明で、多様性の話も出てきた。これをあらゆる分野で貫徹しようとする、覚悟をきめ、相当色々なことをやっていかなければならない。

[富田委員]

子どもたちと舞台を観る団体に入っており、今度LGBTに関する舞台を観る。小学校4年生から観るのだが、芸術の舞台に気持ちを乗せて、言葉ではなく自分で実感して多様性を認めていくというような文化活動を大事にしている。

「文化」という文言が、「資料2」にはあるが、それ以降ないのが残念。人を育てるにはとても大事なことであり、「文化」についての記述を是非入れていただきたい。

[吉川委員]

「参考資料3」で、図書館についての施策は「にぎわいづくり」の中に入っているが、「ひとづくり」ではないか。

[水内委員]

梅ちぎりは素晴らしい取組。ノルウェーのオスロでも、障がいを抱えている就労が難しい方と一緒に高品質な手絞りのリンゴジュースを作り、高値で卸し、その資金を支援に回している事例がある。ひとづくり、就労支援、景観づくりと全て繋がっているところが、現代的で面白い。

横断性をどう担保するかについては、「参考資料3」のイメージ図で、互いに関連していることをもっと表せるのではないかと。最初にタグ付けをして、ビジュアライゼーションの面でも頑張れると、これをロードマップとして、市職員も市民も関われる隙間が出てくると思う。

「緑園都市」という言葉がどこから出てきたのかが分からないが、それをアップデートするような言葉を知多市で作ることもできるのではないかと。

[吉村会長]

「緑園都市」は知多市オリジナルだと思う。今のタイミングでどう受け止めるか。本気で取り組むのなら、何となくではなく、積極的にどう実現するかをきちんと書かなければならないと思う。

イメージ図については、もっと施策が繋がっていくことを市職員が実感し、仕事ができると良い。

[久野委員]

ぶつ切れ問題は気になっていた。「参考資料3」の表も横断性が削がれているが、本来施策はまたがる

ものである。また、「施策」の欄では、ダイバーシティなどベースになる考え方と具体的な施策の2層が混ざっている。これまで色々な新しい取組をしてきたが、普通になってしまっている。「資料2」から「資料3」への連動も切れている。ストーリー性という話もあったが、一番大きな大目標から施策までのストーリー性が感じられず残念に思う。表現方法も含めて根本的に見直ししても良いのではないかな。

[吉村会長]

重点戦略の書き方自体もそうなりかねない。どう見せていくかが大事であり、自分であればこういうストーリーに関われる、と思ってもらえるように繋がられるかが鍵だと思う。

[富田委員]

「参考資料3」の「子育てしやすい地域づくり」の施策は、支援や保育サービスの充実など、やってもらうことばかりであるので、地域づくりということであれば、もう少し人と人との繋がりが入っても良いと思う。

[吉村会長]

上の段階でももっと重なってくるし、下の段階でやらなければならないこともあり、別のところで行うことが繋がってくることもある。この項目にこの施策という単純な話ではない。行政からの何かだけではなく、子育て中の人は何を実現するかという視点も重要だと思う。

[長倉委員]

防災、減災の特にソフト面で、この地域への災害が数分後に発生するとは誰も思っておらず、例えば家族がばらばらな時どのように連絡をとるか、どこで落ち合うか、まで考えている市民はなかなかいない。災害がいつなんどき起こっても対応できるのが真に強い防災対策であり、市民一人ひとりがそこをやっていくことが必要ではないかと思う。

[竹内（誠）委員]

知多市には10のコミュニティがあるが、地域をまとめる人材を選ぶのが困難である。その人が何をするかによって、地域の活動が変わってくる。ある地区で、コミュニティ会長を選べないので、集まった30～40人の班長の中から選ぶとしたが、お互いの繋がりがなく、あの人なら適任だ、とはならなかった。地域を活性化させる重要なコミュニティの中心となる人を選ぶ手段が何かあればと思う。

[吉村会長]

選ばなければならない状況を変えるのが大事で、そろそろ予算はなくても自由にやらせてほしいとなってくるのではないかな。地区にお金が入ってくるから人を選ばなくてはならない、というのは逆。いずれにしても、あり方が問われているのは間違いなく、どう進めていったらやりやすいかは考えなければならぬと思う。

[吉川委員]

将来像は検討して変わる可能性はあるか。

[吉村会長]

このままでいくとしても、委員が納得する理由は必要となる。

[市野委員]

知多市のコミュニティ施策、仕組みは素晴らしいが、実際に自分が組長になったときにはその説明がなく、これこれのことをやってください、とだけ言われた。それでは、市民に本来のコミュニティの役割が伝わらないと思った。実際の現場との乖離があるので、見直していく必要がある。「ひとづくり」の③の人材育成に繋がるかと思うが、この部分の書きぶりをもっと具体的な文言にすると良いと思う。

[久野委員]

図書館は「にぎわい」の要素もあって良いが、安心して一人になれる場所でもある。「ひとづくり」、「あんしんづくり」にも関連する施策で、「ひとづくり」、「あんしんづくり」、「にぎわいづくり」の3つが切っても切り離せないことを示す好事例だと思う。

[市野委員]

公共施設など、3つのどこにも当てはまるものをどこに位置づけるかが難しい。武豊町では、総合的な施策の中に文化の取組が入っており、町民会館の「ゆめたろうプラザ」の中で町の事業として組み込まれている。知多市は、計画はあるが実際の取組はどうなのか。

[長倉委員]

大府市の図書館は、電子図書などIT化が進められていることもあり、6万人以上の自治体の中で利用者数が2年連続全国一。知多市にはない。

[吉村会長]

大府市では、図書館を「文化交流の杜」と言っている。広い意味での学習と交流をミックスしており、事務局もそこを意識して「にぎわい」としているのではないか。

[久野委員]

「ぎふメディアコスモス」もそうで、今のトレンドではある。ただ、施策の中で重要なのは、専門性と人の集いの両立を図ることで、一つを取って全部を捨てるのではなく、バランスをどう取っていくかが重要だと思う。

[水内委員]

この総合計画ができたときに、これが「知多モデル」だとなるのが理想的だが、全部を並べると総花的になる。「資料2」、「資料3」とも、基本的には上手くまとめられていると思う。「知多市モデル」と

するには、どこを尖らせ、磨いていけば良いか。

[吉村会長]

どう見せるかにより、人がどう動かされるかが変わってくる。その工夫はこれから考えていかなければならない。まだ従来の書き方で整理している状態だと思う。

## 【入江副会長のグループ発言骨子】

[入江副会長]

忌憚のないご意見を頂きたい。今回の議論のメインは重点戦略の骨子（案）と主な施策（案）だが、将来像についてもさらにご意見があれば伺いたい。

[河村委員]

資料の施策やイメージ図はよく整理されていて分かりやすい。しかし、まだ総合計画の計画書としてのイメージが湧かない。総合計画の3層構造の中で、「ひとづくり」、「あんしんづくり」、「にぎわいづくり」がどのように表記されるかということ、重点戦略と分野別計画の関係など、全体の形がどのようになっているかが気になる。

[入江副会長]

従来の総合計画では、分野別計画だけのものが多かったが、重点戦略はそこから特出しし、パッケージ化して取り組んでいくことを主張するものだと思う。ここに知多市の攻めの姿勢が表れていると思う。

[竹内（栄）委員]

しかし、重点戦略でも選挙公約のようで総花的という印象。また、将来像と重点戦略とが繋がっていないという印象である。将来像は叙情的で文章としては美しいが、将来像としてふさわしいかどうか疑問である。

重点戦略は、「あたらしく、知多らしく」の目標に集約されるような施策とすべきだろう。事務局案は当然行わなければならない施策ばかりで、これまで既に取り組んでいることだと思う。その中でもどれが重点戦略か、例えば「緑園都市」をめざすならそれに向けた施策を示すべきではないか。

[入江副会長]

確かに、将来像と重点戦略の繋がりが悪いと思う。

[竹内（徳）委員]

それでも、重点戦略を3つに分類したのは進歩だと思う。

[入江副会長]

「ひとづくり」が最初に出ていることに、市の思いが表れているのではないか。従来型で言うと、まちの形などハードの部分や、環境、防災などが初めに出てくる。ここは評価できると思う。

[竹内（栄）委員]

「ひとづくり」の記述内容については、表面的なところしか伝わらないと思う。例えば「いじめゼロ」など、もっと具体性がほしい。こういうところに独自の色が出ないと、印象として弱い。重点戦略の中身は見たことがあるような文言が多いという印象である。

[峯神委員]

図書館整備は「にぎわいづくり」のためだけではなく、「ひとづくり」の②「次代の担い手を育む教育環境の整備」の中で、子どもたちが来て、勉強したいと思う場所という目線で考えることもできると思う。東海市の芸術劇場でも多くの高校生が勉強している。違った環境での学習効果もあることから、図書館も子どもたちが学習しやすい環境整備として考えることができるのではないかと。佐賀県武雄市の有名な図書館のように、人を呼び込む仕組みを作るため、子どもの教育を絡めて考えると良いと思う。

また、「にぎわいづくり」の⑤「魅力資源を活かした観光振興」では、熱海市の例を挙げると、市や観光協会が「ADさん、いらっしゃい」という活動を行っており、テレビ局のADがこれまで自分で行っていた撮影地の調査や様々な段取りを市側で行うことや、いろいろな撮影地の案内などを行うことで、多くのテレビ局が撮影に来ている。このように情報発信することで、人が再び集まってきたという事例がある。仕事だからやらされているのではなく、24時間いつでも連絡してください、というように、市を盛り上げたいという思いから沸いてくるものが、企画が成功する要因の一つであると考えれば、「ひとづくり」が重要だと思う。私も「ひとづくり」が重点戦略の一番最初に挙げられていることが良いと思った。

[竹内（徳）委員]

行政の施策は、ハードの部分が表面に出ることが多いが、「ひと」が最も大事だと思う。情報発信にしても、行政が発信するのではなく、個人個人が発信する事によって人が集まってくるので、そういった人を育てていくことが基本だと思う。公共交通についても、行政がネットワークを形成することには限界があるので、例えば、地域で送り迎えや買い物を手伝ってくれる人を育てないと成り立っていかないと感じる。

[入江副会長]

全ての市民が便利になるような公共交通ネットワークの整備は実現不可能である。「ラストワンマイル」をどうするか、ということと言うと、近所の人との乗り合い、タクシー会社、スーパーなど民間企業と行政との連携など、様々な手法の組み合わせが考えられる。

[竹内（徳）委員]

仕掛けが必要で、ハード整備だけでは限界がある。市民が関わってどのように取り組んでいくか、打ち出すことが重要である。

[竹内（栄）委員]

法律的な制約もあるので難しいと思う。

[竹内（徳）委員]

市で特別な条例を作ることも考えられるのではないかと。

[入江副会長]

法的な枠組みの規制もあるが、なんとか工夫してNPO、民間事業者などと連携して取り組む方法を模索できるのではないかと。

[高山委員]

NPOとして、障がい者が健常者を支援する社会づくりができないか模索している。「ラストワンマイル」のようにあと一步の助けが必要だということを障がい者がお手伝いする取組がうまく循環していかないかと考えている。現在は、入院しそうな高齢者の方など犬の散歩ができない方のため、精神障がい者による犬の出張散歩に取り組んでいる。

[入江副会長]

地域通貨も同じ考え方で、色々な人ができることをできる範囲でお互いに行うことに繋がると思う。

[高山委員]

30分、1時間程度の仕事なら、障がい者にも行える仕事がたくさんある。障がい者が助けられる側から助ける側に回り、生きがいを感じられる社会にすることは「ひとづくり」の一つだと思う。

[竹内（徳）委員]

重点戦略の中に盛り込むのだろうか。

[竹内（栄）委員]

重点戦略にそういった具体的なものが示されていないので、総花的に見えてしまうのではないかと。

[入江副会長]

重点戦略は数ある施策の中から特出しして実行していくものであり、ここに文言が入ってくることは非常に大きな意味を持つと思う。

[河村委員]

3つの重点戦略それぞれの文章中に、市民が関われるチャレンジを具体的に書いた方が良いかもしれない。

[入江副会長]

市民の役割、事業者の役割、行政の役割をはっきりさせておくなら、市民がどういったところでどのように関われるかイメージを持ちやすくなると思う。

[河村委員]

市民の役割の書き方については、行政が市民に押し付けているととられないように、市民が関わりたくなるような、こういうことだったら私もできると思ってもらえるような表現が良いと思う。

[竹内（栄）委員]

同感である。行政が全てをやってくれるという時代は終わっている。行政は場を作り、形を作るが、市民が主体的にやっていくことが大事であり、それを意識した表現にすると良いと思う。

[生田委員]

河村委員、竹内委員のご意見に同感で、市民が関わりたいと思えるかが大事だと思う。私は市民ワークショップ代表の一市民としてここに来ている。重点戦略として示されているものは施策として重要ではあると思うが、現行の表現では行政目線に思える。もっとかみ砕いて分かりやすい表現にいただきたい、というのが一般市民的な意見だと思う。

[片山委員]

重点戦略を3つのカテゴリーに分けるのではなく、「ひと」だけで良いのではないかと思う。一人ひとりが大切にされるので、色々な施策ができ、あらゆる地域活動に繋がると思う。どこで関わるかは市民が決めれば良いと思うが、パッケージ化されると、この部分にこうやって関わらなければならないと言っているように捉えられないか。あまり分類せずにもっと簡単に示すと良いと思う。

[入江副会長]

「ひと」にすると相当広いと思うが、いかがか。

[片山委員]

全ては「ひと」だと思う。分かりやすく、それでもありふれたものにならないようにできれば良いと思う。

[入江副会長]

先ほどご意見いただいた、パッケージ化されると、途端に市民がここに関わらなければならないというイメージができてしまう、というところをどうすれば解消できるだろうか。パッケージ化の利点は、人それぞれのライフステージに具体的に寄り沿う感じでイメージしやすくなることだと思うが。

[片山委員]

ライフイベントが人によって異なってきているので、あまり固定化せずに少しざっくり示しても良いと思う。

[入江副会長]

書き方、見せ方の工夫で、例えば市民が出来る役割をたくさん書くのはどうか。

[片山委員]

市民が関われることをもっと気軽に自分で考えられるようにすると良いと思う。

## 【全体共有】

[入江副会長]

大変たくさんのご意見を頂戴し、難しいと感じています。

イメージ図、3つの「～づくり」は分かりやすいものの、総合計画全体の形として重点戦略をどこに落とし込んでいくかのイメージが掴めない、とのご意見がありました。また、重点戦略といっても、まるで選挙公約のようで総花的である、将来像とどのように結びつくのか、という貴重なご指摘がありました。「緑園都市」がどこに当てはまるのか、将来像との繋がりが不明であり、落とし込めていないのではないか、重点戦略だけみると施策としては従来型で既視感があるものだ、というようなご意見もありました。

「ひとづくり」では、施策の書き方が表面的な部分しか伝わらないのではないかとということで、重点戦略として出すのであれば、知多市としてのオリジナリティを言葉としても選んでも良いのではないかと、というご意見もありました。

図書館が「にぎわいづくり」の中に入っていますが、これは「ひとづくり」の子どもの教育に大きく関わってくるとともに、まちのにぎわいにも関わり、3つの「～づくり」にそれぞれ関わるのではないかと、というご指摘もありました。

まちづくりをどう発信していくかで言うと、一人ひとりがまちのために何ができるかという内側から沸き起こるような気持ちを作っていくことも重要ではないかと、というご意見もありました。

施策として見たときにハードの面が前面に出てきてしまう印象が強いが、そうではなく、まず人がベースにあってその上に施策が乗ってくるのではないかと、というご指摘もありました。

公共交通ネットワークの再構築で言うと、最終的に全ての市民が公共交通機関を便利に使えるところまで構築するのは不可能だと思うので、ラストワンマイルのところを、例えば市民が補っていくのか、自分が関わっていくのか、それをどうやって市が支えていくのか、というところについても、議論があるべきではないかと、という意見もありました。

「多様性を認め合うまちづくり」の部分で、精神障がい者の方についてのご意見がありました。従来型でいうと、障がい者に対する福祉、健常者が障がい者を助けるという概念しかありませんでしたが、これからは障がい者が健常者を助けるという仕組みも十分考えられますので、そういったことを重点戦略に項目として盛り込むと良いのではないかと、というご意見でした。「多様性を認め合う」という項目の中の施策は、ダイバーシティや多文化共生だけですので、この項目に加えても良いのではないかと、というご意見でした。

役割分担というご指摘があり、多くの委員さんがおっしゃっていましたが、市民が何をできるかというところで、市民の役割、行政の役割についても書き込んでいった方が、より具体的に分かりますし、市民にとって何がどうチャレンジなのか、ということについても具体的な表現があると良いのではないかと、とのご意見がありました。そのときに、あまりに市民に押し付けるような書き方にならないように、市民が主体となって関わりたくなるような書きぶりが良いのではないかと、とのことでした。

また、「ひとづくり」ではなく「ひと」というカテゴリーで良いのではないかと、というご意見もありました。人が行動を起こすときには必ず理由があり、どこで関わりやすいかということは人それぞれなので、パッケージ化されると良い面もあるのかもしれませんが、デメリットとして、ある程度決められた関わりを市民が求められるようなイメージができてしまうのではないかと、ということでした。市民の関

わりはもっと主体的で、どんな小さな関わりでも良い、という観点で言えば、市民が主体的に自分で考えられるような仕組みが重要であり、「ひとづくり」ではなく全て「ひと」がベース、という発想がまずあっても良いのではないかと、とのご意見でした。

[吉村会長]

ありがとうございます。お話を聞きながら、多くの委員さんが似たような問題意識をお持ちだということを確認しました。その意味では、そちらのテーブルとこちらのテーブルで全然違う、という感じはしませんが、こちらで議論となったことについて共有したいと思います。

一つは、今回の総合計画では、先ほどお話したとおり、担当課による縦割りのではなく、出来る限り横断的に取り組むことをどのように担保しているのかが大事だと思います。しかし、例えば「資料3」の書き方を見ると、項目と施策があって、ここに書いていない担当課があって、というところが容易に読めてしまうので、もう少し書き方、あるいは見せ方の工夫が必要なのではないかと、とのご意見がありました。一つの施策で複数の項目を達成することもあるでしょうし、逆に言えば、例えば、「子育てしやすい地域づくり」の項目の中で挙げられている施策がこれだけなのか、ということも含めて考える必要があるのではないかと、というご意見もありました。

特に「参考資料3」のイメージ図については、何人かの委員さんからご指摘がありましたが、「ひとづくり」、「あんしんづくり」、「にぎわいづくり」のオレンジ、緑、青が重なり合っているところを見せる点ではこのイメージの通りかと思えます。他方で、施策同士の中では、円の中で完結していますが、施策が他の円にどうやって波及していくのかを描くことの方が重要ではないでしょうか。例えば、市民協働によるまちづくりを通じて「ひとづくり」だけを実現するわけではなく、「あんしんづくり」、「にぎわいづくり」にも関わってくるというように、一つの取組が色々なところにも波及していきます。また、他の取組が関連し合って、「ひとづくり」に影響し合うということもあります。このような姿を描きつつ、市の担当者が仕事をする際に、担当の仕事だけを行うのではなく、それがどのように影響していくのかも意識しながら、仕事できるのではないかと思います。また、色々なことで施策が重なり合ってくると相乗効果も生まれる、ということを手く見せるのも今回のチャレンジとして大事なのではないかと、という話があったかと思えます。将来像は、一つの物語性を持った形で描かれていますが、それと同様に、重点戦略、基本的な考え方についても、項目ごと、施策ごとの繋がり方に一つのストーリーが見えてくると、その中で地域の人、市民も自分だったらこういうことができるのではないかと受け取れるのではないかと、という議論もありました。

「緑園都市」に関しては、もう少し慎重に考え直さなければならない要素があると思います。これまで50年近く「緑園都市」を掲げてきたのであれば、どういうことをやってきて、結果的にどうなってきたのかということ、どこまで評価できるかは分かりませんが、もしこれからこの言葉を使うのであれば、本当の意味でどのように定義づけて、どのように実現していくかということもセットで考えていく必要があるのではないのでしょうか。重点施策の中に、実は「緑園都市」に関わるのがあまり見えないというご指摘もありましたし、スローガンに出るということは、単に今まで使ってきたからということではなく、積極的な意味合いも込めて使っていく必要があるのではないかと思います。

同じように「梅香る」についても、その後に梅についての議論が出てきませんが、梅を資源として使い何か新しいことをする、という議論もあると思います。水内委員からご意見頂いたように、就労を生

み出すことも可能でしょうし、知多市らしい景観ということも考えてみれば、梅をきっかけに色々なことを想像することができ、そういうことが今回の総合計画の中で大事にしていきたい取組となるのではないかと思います。一つの視点から見たときに広がって色々なものが見えてくることを考えると、もう少し書く必要があるのかどうかは、改めて確認した方が良いと思います。

「基本的な考え方」の中で、「文化・文化活動」という言葉を入れていただきました。ただ、重点戦略の中でそういうところが見えにくいので、その辺りはもう少し書いても良いのではないかと、というご意見がありました。例えば、「ひとづくり」の中で、文化を通し、広い意味だけではなく、狭い意味での知多市が持っている固有の文化も含めてかと思いますが、それを活かしながら何かできるのではないかと、ということを書き込むと良いのではないかと、というご指摘がありました。それと同時に、「学び合う」、「学ぶ」というような、「ひとづくり」の中で、誰かがしてくれるということだけではなく、自分が積極的に、主体的に学びながら、あるいは他の人たちと学び合いながら、というところが大事なキーワードになり、重点戦略の中のどこかで考えていく必要があるのではないかと、というご意見もありました。

副会長側の議論でもありましたように、図書館整備に関しても、多様な価値観がありますが、少なくとも多様な可能性を持っているという意味では、にぎわいの・交流的側面もあるかもしれません。他方で学習という意味での機能、教育という意味での機能、一人で色々な活動をしていく中での図書館の可能性もあるでしょうし、居場所的な意味での図書館など、「にぎわいの拠点づくり」だけにとどまらない部分があるかと思います。図書館は典型的な例で、これを実行すると色々なところに影響し合って、相互に相乗効果を生み出す、というような見せ方、書き方をしていくならば、図書館を整備することは本当に意味があるものだ、ということになります。単に、にぎわいのために図書館を作ります、という意味合いだけではないということ、しっかり見せるときには見せていった方が良いのではないかと、というご意見がありました。

個別要素に関しては幾つかあり、例えば、地域包括ケアの中では、単に高齢者・障がい者福祉だけではなく、医療の観点をどう考えていくのか、という話もありました。また、「市民協働によるまちづくり」の中のコミュニティに関しても、今まで取り組んできたことも含めて未来志向で考えた場合の、コミュニティのあり方を問い直す必要があるかもしれない、という話もありました。子育てについても、単に子どもを育てるだけでなく、それを通じて、例えばお母さん方がどんなことが地域に対してできるのか、サービスをいかに受けるかではなく、自分自身がどのようなことができるのか、主体を転換したときにどうなのか、という視点があっても良いのではないかと、という議論もあったかと思います。

最後に、知多らしい、「知多モデル」的な総合計画にしたいという議論はこちらのテーブルからもあり、せっかく作るのであれば、どの辺りに知多らしさを見せられるのか、計画書の作り方も含めてどうすれば「知多モデル」的にできるのかは、一緒に考えなければならないと思いました。

テーブルごとの議論の共有については以上ですが、今のご意見を踏まえて少し全体で議論できればと思います。

私の直感では、大きなところで対立している訳ではなく、総論としては、もう少しこういう方向にしていきたい、というところが多くあったのではないかと、聞いていて思いました。全体的に、これまでのご意見を踏まえて、議論できればと思います。

## 【全体での意見交換】

[水内委員]

大きなところに違和感があるのではなく、これから詰めていける段階に入ってきたと感じました。将来像のキャッチコピーとそれに続く文章が、それぞれの重点戦略、これから10年間、地域の人たちと一緒にどのようなことをやっていくのか、ということのを代弁する、象徴するものでなければならないと思いました。その繋がり、うまく作っていく必要があります、大事な将来像だと思います。

[高山委員]

片山委員の、「ひと」に注目するという意見に同感で、私も結局は「ひと」だと思います。世の中を変えていくときに必要なのは、教育しかないと思います。教育とは「ひとづくり」で、それは既存の学校教育や社会教育に限らないと思いますが、そこに知多市らしさが出てくれば良く、今のままで良ければそれを伸ばし、そうでないという市民からの意見があれば変えていけば良いと思います。

社会教育や環境教育に関わっていく中で、子どもの変化はすぐ目に見え、10年後がたいへん楽しみです。しかし、今を担っているのは大人であり、子どもに期待するのは良いですが、押し付けてはならないので、一緒にやっていくことが必要だと思います。

[吉村会長]

水内委員からのご意見にもあったように、将来像との関連で、なぜこの3つの重点戦略なのかという説明をきちんとする必要があるのではないのでしょうか。なぜこうなのだという繋げ方、メッセージにはもう一工夫がいると思います。重点戦略のリード文で、こうした理由で3つを重点的に進めるという説明がないと、なぜそうなのか、となるのではないかと思います。

[竹内（誠）委員]

まちづくりとは、誰しもわくわくするものですが、箇条書きで書かれるとテストのように感じます。皆がまちづくりに関わってわくわくする、楽しい、という思いを抱けるような内容、資料とすれば、多くの方が参加されるのではないかと思います。

[吉村会長]

まさにそこがチャレンジであり、従来の計画が必ずしもそうはなっていないことに対して、どうしたらそうなるのかと実感しました。想像力を問われており、委員の皆様にも、こういうのはどうかというものを出示していただければと思います。

[久野委員]

皆さんの話を伺いながら思いついたことですが、「にぎわいづくり」という言葉の意味合いを、人口減少を踏まえた位置付けにした方が良いのではないかと感じてきました。人が集い交流する場というと、1か所に人が集まっているイメージですが、今後日本全国どこでも高度成長時代やバブル期のようににぎわいはないと思った方が良く、にぎわいや交流を、ICTやIoTなどの技術を使った形、人と接したこと、などと位置付けることが大事だと思います。にぎわいの意味づけを変えていくことで、新しい

にぎわいのあり方を検討したいと思いました。

[吉村会長]

個人的には、そこが気になっているところです。「にぎわい」という言葉を使うべきなのかというところで、「にぎわいづくり」の下には5つの項目がありますが、それらが「にぎわい」という言葉で束ねられるのでしょうか。全国的には、にぎわいづくりを頑張ろうとやってきましたが、結果的にそうならなかったということもありますし、それを目的とする、目標として設定することがどうかと、問われているところです。にぎわいづくりを目標とするので、施策がイベント的、動員的になってしまうのかもしれませんが、もう一度考えた方が良いのかもしれませんが。例えば、地域経済の活性化におけるにぎわいというのも、よくよく考えるとどういうことを意味しているのか、とも思いました。

[高山委員]

私も「にぎわいづくり」には違和感があり、無理な設定をしているのではないかと思います。政治家の選挙公約のように、市の政策として「にぎわいづくり」のような未来ある言葉を挙げなければならないので、とりあえず項目として挙げたように感じます。

まだまだ活気あるまちづくりをしていきます、というよりも、ハードとしては整備済みで、成熟した静かなまちを作ります、とすれば、名古屋市民が押し寄せて、結果的ににぎわう、ということもあるのかもしれませんが。「静かなまちづくり」というようなキャッチフレーズの方が人の目を引くのではないのでしょうか。

[竹内（徳）委員]

「にぎわいの拠点づくり」の施策に「市役所、図書館整備」が挙げられているのは、朝倉駅前開発が前提になっているという思いが見え見えだと受け取られるので、この記載は控えた方が良いのではないかという気がしました。

[入江副会長]

今の意見を伺って、確かに「にぎわいづくり」の中に、ワークライフバランスが入っていることに違和感を持ちました。無理にこれをまとめることに難があるのかもしれませんが、にぎわっていなくても良いということであれば、前段階で活動の場がまずある、という方がじっくりくる気がします。

「将来像」、「まちづくりの基本的な考え方」、「めざす姿」が基本構想に反映され、この基本構想に沿って基本計画があるのであれば、結びついていない感、バラバラ感が強い印象を受けましたので、「めざす姿」の「ひとの未来」、「まちの未来」と重点戦略をもう少しリンクさせた方が良いと感じました。「めざす姿」にあっても重点戦略に載っていないものがあると思います。「文化」について、また、「まちの未来」の地域経営についても、具体的には記載されていないなど、その辺りの繋がりが気になりました。

重点戦略としてパッケージ化することは、市民にとっての受け取りやすさもあり、施策の実現度合いが市民から見て分かりやすくなるメリットがあると思いますが、行政の側から考えると進行管理がどのように行われるかがたいへん気になっています。それぞれの所管で部局横断的に行うのは、理念的には素晴らしいことですが、実際に行政の色々な部局でどちらが所管かの綱引き状態になることが懸念され

ます。リーダーシップを取る部局が決まったら、他の部局はあまり積極的に取り組まない、というケースを他の自治体で見かけたことがあり、進行管理と成果への評価をどうされるのか気になりましたので、事務局にお尋ねしたいと思います。

[事務局]

進行管理については、重点戦略の部分を評価指標を設けて進行管理していくことを検討しています。評価方法は現在検討中ですが、市民アンケートを定期的に行うこと、また評価指標として各課の統計データを関連付けて一緒にみていくことを検討しています。次回審議会には、進行管理の方法についても委員の皆様からご意見頂けるよう、案をお示ししたいと考えております。

[入江副会長]

これからということは承知していますが、市民がどのように関わられるかということで進めてきているのであれば、進行管理も評価も市民が関わるべきだと思います。市民から見たときのパッケージとして分かりやすいという形で作っていただいているのであれば、どこまで進んだかという肌感覚的なところを評価していただくのは市民の目であり、アンケートではなく、多くの方々に直接評価の主体になってもらうのが、方法として有効かと思います。

[吉村会長]

ありがとうございました。ありとあらゆるところでチャレンジが一つではないというのは、今日検討している話にも当てはまり、これから検討していかなければならないところもまだまだあるということだと思います。これまでのアンケートや個別事業評価を組み合わせ、というだけではない発想も取り入れながら、どのような進行管理をしていかなければならないか、ということだと思います。

いずれにしても、「将来像」から「基本的な考え方」、「めざす姿」、「重点戦略」、後に出てくる個別項目ごとの施策を、どういう形で繋げられるのか意識しなければなりません。良い将来像があるにしても、後がついてこないといけませんので、今日のご意見も踏まえ、皆さんにフィードバックしながら進めていかなければならないと思っています。

最後のご意見も含め、大きなところでの相違はない気がしましたが、「緑園都市」をどう考えるかについては、きちんとした説明などがあつた上で、使う使わないを説明いただいた方が良いと思います。行政が使いたいから使うというだけではなく、市民がどうか、ということもありますので、今日のご意見も踏まえて検討いただきたいと思います。「梅香る」も含め、「まちづくりの基本的な考え方」や「めざす姿」にあり、その後の施策に出てこない、というものは、改めて修正、整理いただいた上で皆さんにフィードバックできればと思います。

重点戦略3つ目の「にぎわいづくり」についても、幾つかご意見がありましたので、どうしてもこの言葉を使うのか、あるいは高山委員からお話のあつた知多市らしい「静かなまちづくり」をめざすのか、といったことを考える必要があると思います。従来ですと「にぎわいづくり」という言葉を使いたくなるのは理解した上で、今このタイミングで、今までやってきたことも鑑みながら、どのような言葉が良いかについては、何となくではなく、きちんとした理由があることが、委員にとっても、市民にとっても重要であると思います。そういう意味も込めて、なぜそれなのかというところの説明について、事務

局から口頭では重点戦略のリード文のような説明があったかと思いますが、それをきちんと文章にしていた上で改めて確認したいと思います。

全体的な方向性については、皆さんの想いを受けとめながら、改めて議論すべきところは議論し、共有すべきところは共有しながら進めていきたいと思っています。適宜フィードバックしながら、会長と副会長で確認しながら進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。ますます責任重大ですが、私自身はわくわくどきどきでやれると良いかなと思いますし、皆さんと共有したいとも思っていますので、今後の「将来像」並びに「重点戦略骨子（案）」並びに施策も含めて、会長、副会長の方で進めさせていただきたいと思っています。

#### [事務局]

活発な意見交換をありがとうございました。本日たくさんのご意見を頂きましたので、改めて事務局で整理させていただき、修正案や補足の資料などを作成し、皆さまにお送りさせていただきます。

今年度の策定スケジュールについてご説明させていただきます。「参考資料2」をご覧ください。8月23日の第7回審議会までをかけ、総合計画全体の案を作成いたします。その後、パブリックコメントを実施し、審議会からの答申をいただき、議会審議、と進めていく予定としておりますので、ご承知おきください。

次回の審議会開催については、7月9日（火）午後3時から、会場は本日と同じ、この協議会室を予定しています。

#### [吉村会長]

以上で、予定の議事は終了いたしました。これにて、第5回知多市総合計画審議会を閉会いたします。皆さま、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

以上